

2021 年度（令和 3 年度）事 業 報 告 書
（2021 年（令和 3 年）4 月 1 日～2022 年（令和 4 年）3 月 31 日）

特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

2021 年度は、長引くコロナ禍の状況に応じて日々対応策を講じながらも、長期的な視野で「まちの力」をより意識し、子育て環境を豊かにしていくための事業展開を実施した。1 つ目に、すべての事業において「参加」の余白をこれまで以上に意識して、多くの子育て当事者やまちの方・商店・企業等多主体の人と事業を創ることを試みた。具体的には、ウェルカムベビープロジェクトにおいて「まちからウェルカムベビー」を合言葉に、産後の家庭とまちとの接点が生まれる工夫を重ねた。2 つ目に、コロナ禍でこれまで以上に孤立感を深める人や新たな暮らし方・働き方・子育ての仕方を模索している人が増えている状況を踏まえ、これまで以上に多様な人に向けてのアウトリーチを実施した。具体的には、オンラインを最大限活用し（産前産後の講座・子育て中の方々同士をつなげる対話の場・3 枚の葉っぱを活用したオンライン対話の場・オンラインショップでお菓子や雑貨販売等）、実際にカフェの場に足を運ばなくても共に活動することのできる場を設けた。3 つ目に、5 年でカフェ型の居場所のノウハウを 100 か所に展開することやウェルカムベビープロジェクトを 10 地域に展開をしていくために内部でのノウハウの洗い出しや展開に向けての基盤強化に力を入れた。具体的には、みてね基金を活用しながら内部研修を重ね自分たちの実践を言語化、オープンソースでのデータ公開をしたり、展開した先々の居場所の方々と学びあうためのコミュニティ設計をしたりしたことが挙げられる。最後に、在宅勤務やオンラインでの事業が増えているからこそその内部コミュニケーションやミーティングの在り方にも工夫を重ね、研修の実施・法人全体の事務局の体制強化・多様な人が関われるような組織づくりを意識的に行ってきた。

<事業内容>

I. 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集しネット上に毎日 100～200 件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につながることを狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】入力してくださるこまちパートナーさんが 2 名増え、2021 年度は 6 名体制となった。毎週チラシを元に情報入力をしていただき、最終チェックをした上でチラシデータを掲載した上で公開してきた。今年度もコロナ禍のため、昨年度に比べてイベント入力の件数は若干増えてきたものの中止になったイベントの削除作業が続いた。取り組みとしては、チラシデータからもイベント情報が閲覧しやすいように、チラシ全体ではなく必要な情報部分のみ拡大して掲載する工夫を加えた。また、地域こそでカレンダーの入力マニュアルを最新版に更新し、データベースでの共有に切り替えたことにより、入力の最中でもすぐにマニュアルで再確認がしやすくなったとの声もあった。そして、地域こそでカレンダーのクレドを作成するために、パートナーさんそれぞれの想いや疑問、共通認識させたいことなどを話し合い、クレドを仕上げることもできた。ととの芽で、拠点外のイベント情報についてお問い合わせがあったとき、地域こそでカレンダーを通じてお申し込み先をご案内できたという嬉しい情報を聞き、今後も届いたイベント情報を丁寧に入力し、公開していきたいという意欲につながった。

- ・日時:通年

- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区内

- ・従事者人員：7 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、15,130 名程度
- ・支出額：205,184 円

2. とつかの子育て応援ルームとことこ 情報スペース運営事業

- ・内容：【概要】年間約 1 万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設において、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1 人の情報コンシェルジュが常駐し、月間 100 件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】コロナ禍の妊娠出産、出かけることに不安がある、地域やほかの親子との接点がほとんどない、人との距離感が難しいなど、コロナ禍ならではの相談を多く受けた。母子保健コーディネーターの周知のため、こども家庭支援課と協力して赤ちゃんのお世話入門のちらしを作成。壁面に大型カレンダーを掲示し、母子保健コーディネーターや横浜子育てパートナーの相談日をはじめ、区で開催する両親学級、健診、離乳食相談日を案内しやすくした。保育園が作成した園の紹介パネルを閲覧できるようタブレットを設置し、幼稚園えらびのスケジュールを作成して手に取りやすい外のラックに配架するなど、とことこならではの情報を発信して好評を得た。お父さんの来所が増えてきたので、入口近くに父親向けのイベント情報を、プレイスペースには公園や外遊びの情報を掲示した。来所者からのおすすめ情報を掲示するくちこみマップをリニューアルしたほか、とことこを知ってもらうためとことこ便りを年 2 回発行した。ノロ研修やとつこの芽の避難訓練への参加を経て非常時の備品とマニュアルを整備した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
- ・従事者人員：7 名
- ・受益対象者：のべ 9032 人
- ・支出額：1,964,381 円



↑ 戸塚区役所 3 階



↑ 情報スペース

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

- ・内容：【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩 7 分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の新出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつくらしている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネートしながら活気のある場をつくらしている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】新型コロナウイルス感染防止対策として、換気や消毒を徹底して行い、日々安定して居場所

所を運営ができるよう注力した。飲食においては、市庁舎2階にある TSUBAKI 食堂さんとのコラボメニューを1か月実施。スタッフにとって、他のお店で立たせてもらう経験にもなり、勉強する機会となった。また、カフェ1階駐車場にて「コーヒースタンド」を毎週実施し、地域の方や子育て層に限らず世代を超えてのたくさんの方に立ち寄ってもらう機会になった。テイクアウトドリンクも開始。たくさんのご寄付によるコロナウィルス蔓延防止のために休園や分散登校になった親子向けにカレーの提供やケーキセットの提供をはじめ、コミュニティ冷蔵庫®の設置も始まり、「誰かから誰かへ、お裾分け。」のあたたかい気持ちが循環していく取り組みを行った。そのほか『世界のお菓子』企画もスタートし、旅行に行かれない今だからこそ旅行に行った気分で楽しんでもらえるよう工夫をし、食を通して世界の文化に触れ、交流する機会となった。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：16名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 2715 名程度
- ・支出額：13,464,276 円



↑ 世界のお菓子シリーズ



↑ ワゴン販売



↑ 季節の畑プレート、お弁当

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」(発達障がいをもつこどもの親を対象に情報発信・イベント実施)

- ・内容：【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と、依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】コロナ禍のため、申し込みが多かった勉強会はオンラインやハイブリットで開催したが、昨年度に感じた「オンラインよりオフラインで開催した時の話しやすさ、共感しやすさ、参加者同士の繋がりがやすさ」の経験から、感染対策を行い、なるべくオフラインで開催できるように心がけた。コロナ禍で人に会う機会が少なくなり、孤独を感じていた方が「悩んでいるのは自分だけじゃないと思った、また参加し

ます。」と続けて参加してくれることもあった。新しい取り組みとして、2020 年度から作り始めたでこぼこの会の葉っぱを完成させ、こまちぷらすのスタッフ研修やでこぼこの会の活動で葉っぱのワークを行い、参加者のリアルな声を届けることができた。また、戸塚区地域づくり大学校で講師依頼があり、自分たちの活動を地域の方に紹介する機会があった。区内で親子支援をしている団体の集まりの会「ポンテ」にも月に 1 回参加し情報交換をしたほか、ポンテのチラシをお子さんの発達に悩む保護者の方向けに Q&A を盛り込んだ内容にリニューアルし、区や地域の施設に置いてもらったり、イベントのパネル展示に参加したりと、周知活動を積極的に行った。

- ・日時：4 月 9 日、5 月 16 日、6 月 4 日、7 月 9 日、8 月 6 日、9 月 3 日、10 月 8 日、11 月 5 日、12 月 3 日、1 月 7 日、2 月 4 日、3 月 4 日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 70 名程度
- ・支出額：79,246 円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会を開催。
【今年度の成果】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にすること」を目指し活動した。これまでの参加者に「今後知りたいこと」をヒアリングした結果、「ダブルケア体験談」「介護とお金について」等のミニ勉強会も取り入れた。また、2021 年度はこれまでのイベント実施時の感想と、新たなアンケートを実施し、「親の介護やダブルケア」についての当事者の声の収集と選定を行った。
- ・日時：5 月 24 日、6 月 28 日、7 月 26 日、8 月 30 日、10 月 25 日、11 月 29 日、12 月 20 日、1 月 14 日、3 月 28 日（計 9 回開催）
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：1 名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ 24 名
- ・支出額：12,549 円

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」（不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月 1 回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒（学齢期）の家族の方がお話をする場。
【今年度の成果】事業の立ち上げ 4 年目となった 2021 年度は、引き続き不登校・ひきこもりの子を育てた経験のある方から進路についての話を聞いたり、不登校経験をした当事者の方の話を聞いたりすることで、気づきや安心感を得、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。また、不登校児童生徒支援コーディネーターの方をお招きし、行政・学校現場の状況等お聞かせいただく機会も設け相互理解を深めることができた。初の試みとしてヨガで体を動かし、母親が自分を大切にするという気づきを得られる会となった。オフラインで開催されている場所がまだまだ少ないため、横浜市近辺にお住まいの方だけでなく、他市・他県の方にも参加いただけた。9 月から 3 回、不登校の子どもたちの外出機会、学びの機会づくりとして親子の居場所を開催した。親子で安心して過ごせる場を持つことができ、参加をきっかけに積極的に外に出られるようになったお子さんもいた。戸塚区ふれあい助成金の助成を受け、地域との連携を深

めながら実施。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支えてくださった。ポンテという区内のネットワークの会にも月一回参加し情報交換をしている。

- ・日時：4月17日、5月2日、6月18日、7月17日、8月20日、9月10日、9月17日、10月16日、11月12日、11月19日、12月17日、1月15日、1月21日、2月18日、3月18日、3月19日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ 106名
- ・支出額：60,743円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。

【今年度の成果】2020年度から続く新型コロナウイルスの影響で、イベントのキャンセルや延期が続く時期もあったが、一方で安心して外出できる場、人とのつながりがより求められていることを感じた。特技や資格を活かして、コロナ禍における子育て中の方の力になりたいと考える方のイベント開催も増え、定期契約10名を含めのべ37名の方にこまちカフェのレンタルスペースをご契約いただいた。子育てに関する講座やおしゃべり会、ヨガやピラティスなど体を動かす講座、手形アートや編み物などの手作りワークショップ、整体やヘッドケアなど体を労わる施術、親子での遊びや撮影会など、年間400件を超える多種多様なイベントが開催された。毎月1000部発行しているイベントチラシは、こまちパートナーの協力も得て、戸塚区内を中心に約55か所の施設・店舗に配架している。イベント情報を掲載するだけでなく、こまちカフェを知らない方、子育てに直接関わりの少ない世代に興味をもっていただけるよう、広告協賛枠を利用してこれまでにない取り組みや表現方法にも挑戦した。その中のひとつ「セルフ写真館」は、新しいレンタルスペースの活用方法として継続して開催している。チラシのほか、SNSでもイベントの情報を発信し、様々な媒体での告知が効果的な集客につながった。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2100名程度（オンライン参加者を除く）
- ・支出額：1,462,508円



↑こまちカフェ イベントカレンダーチラシ（毎月発行）



↑セルフ写真館

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。

0 か 1 ではない働き方（自宅にしながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】今年度 4 回開催した手づくり品展示販売会「大切な人への贈り物展」では、密を避けるため屋外での販売や、開催期間を 1 週間設ける等の対策を取りながら開催した。屋外の販売を行うことで、今までご来店することのなかった近所にお住まいの方や子育て世代以外の方に、こまちカフェの存在を知ってもらう機会となった。また、遠方のお客様や感染予防の観点からイベント会場にご来場されないお客様に向け、リアルタイムでの SNS 動画配信を行い、SNS 上でお客様と話すことでその場の雰囲気を感じていただき、オンラインショップでの販売につながる事例もあった。また作家さんも動画に参加していただくことで、SNS がお客様と作り手側との交流の場ともなった。6 月にはスタッフからの声で生まれた「透明マスク」を作家さんと共に開発。聴覚に障害のある方や保育の現場でも活用され、オンラインショップを通じて全国各地へ販売し、地域の講演会イベントへの使用で大口注文もいただいた。3 月の贈り物展では鳥取県の子育て支援団体 Tottorimama's さんとのコラボ開催として、ハンドメイド委託販売の伴走支援を行った。神奈川県と鳥取県相互で同一テーマ（国際女性デーにちなみ、ミモザをテーマとした）の手づくり品販売を行い、それぞれの作家さん同士での交流も生まれた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ 1180 名程度
- ・支出額：963,736 円



↑ ミモザをテーマにした小物販売



↑ スタッフの声から生まれた「透明マスク」

V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016 年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018 年からは横浜市鶴見区、2020 年からは千葉県松戸市でも取り組みが開始。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いの内容は選考会にて 4 人の選考委員により認定されたものが入っており、申し込みがある世帯へ無料で配布している。このプロジェクトの資金はすべて民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）でまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな 社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・

モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。一例として、このプロジェクトからおむつ自動販売機が開発され、産院とのプレママ・プレパパ教室の開催が生まれている。

【今年度の成果】

プロジェクト全体の骨格を見直し、戸塚区での取り組みを実施する「戸塚支部」事務局としての機能と、地域への取り組みを広げていく「本部」としての機能を再整理し、他地域への展開にも力を入れた。プロジェクトのホームページのリニューアル、協賛の枠組みの見直し、他地域の支部と共通で利用できるプロジェクトのパンフレットの作成等、プロジェクトの目指すことや参加運営の方法をよりわかりやすく伝えられるよう整えた。

[戸塚支部]

○出産祝い部門

2021 年度の出産祝いは、戸塚区 629 個、鶴見区 372 個をお届けした。まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催の中止と再開を繰り返す形になったが、自宅で縫ってくださる方や、地域ケアプラザのイベントとして開催される機会も増え、商業施設のイベントでのワークショップも実施する等、様々な地域の方が参加できる形で継続している。2022 年度の出産祝いについては、コロナ禍の厳しい中、プロジェクト開始以来最多となる 18 企業・団体の応募があった。

○産前部門

近隣の産院と協働でプレママ・プレパパ講座を継続実施し、5 年目となる。2020 年度に引き続き、オンラインでの開催となったが、計 2 回で 48 組の参加があった。本イベントへの参加をきっかけに、産後部門のイベントへの参加やこまちカフェへの来店につながる方もいらっしまった。

○産後部門

オンラインで月 3 回、こまちカフェでの対面実施で月 1 回、妊娠中～産後のママがおしゃべりできる場として実施。オンラインは計 32 回開催し、延べ 100 名、カフェ開催では計 11 回の実施に述べ 40 名の参加。日々の子育ての疑問や自分自身のことについてお話をする時間となった。

○タウンポーター/ナッピーデー

2021 年度からの新たな試みとして、子連れでの外出を後押ししまちの様々な場が「ウェルカムベビー」となることを目指し、子育てを応援、子連れでの来店を歓迎する商店等に「タウンサポーター」として登録していただき、登録店舗を「とつかママつながりラボ」の協力にて作成した「とつかウェルカムベビーマップ」に掲載。また、登録店舗のうち任意にて参加する店舗と共に毎月 7 日を「ナッピーデー」として、子連れでの来店客への各種サービスをするイベントも実施。タウンサポーターは 2022 年 3 月現在 12 店舗、うち 7 店舗がナッピーデーに参加。ナッピーデーは 2021 年 7 月～2022 年 3 月で 9 回開催した。

[本部]

○支部展開

2020 年度より開始した松戸支部（事務局：まつどでつながるプロジェクト）への伴走を実施し、松戸市では 200 個の出産祝いを配布。また、これまで本部が担ってきた横浜市鶴見区での出産祝いの配布を鶴見支部の事務局である「つつみままっぷ」に運営を全面委譲する方向で段階的に準備を進めた他、2022 年度より新規支部として茅ヶ崎支部（事務局：地域のお茶の間研究所さろんどて）の立ち上げが決定。

○パートナー企業・団体との協働

協賛各社を「パートナー」とし、パートナー交流会、キックオフイベント、戸塚・鶴見地区の出産祝い選考会、産後を社会で支えることをテーマとしたトークイベント等を開催し、パートナー各社との交流や理念共有、また、パートナー間の情報交換の場として開催した。その他、飲食店とのコラボ企画としてプロジェクトへの寄付につながるメニューの販売や、商業施設のイベントでのプロジェクトの PR、子育て中

の方々の声の紹介等、様々な業種の企業商店との協働にも取り組んだ。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員：9名
- ・受益対象者：戸塚区・鶴見区で生まれた赤ちゃんのご家庭の方 延べ 1200 名程度
企業、一般市民など延べ 200 名程度、計延べ 1400 名程度
- ・支出額：5,324,070 円



↑「マタニティ+産後ママ」おしゃべり会



↑ 2021 年度出産祝い

2. つながりデザインプロジェクト

- ・内容：【概要】飲食やイベントなどをきっかけに訪れた方々が、「互いに興味を持つ」や「自分の思いを語り合う」といったゆるやかな入口からスタートし、自身の「やってみたい」を見つけ、やがて「地域課題や他者のニーズと掛け合わせることで自分らしい参加と活躍のできる機会をつくり出す取り組みをしている。

【今年度の成果】2021 年度は毎月 1 回定例のパートナー登録説明会に加え、平日勤務や日程が合わない方むけに個別で開催し、新たに 32 名のボランティア登録があった。登録後は、FB グループの他に、公式 LINE を新たに活用。カフェ事業中心とした、お手伝いの募集や軽作業のお願いをそれぞれ担当スタッフがなげかけ、延べ約 60 名の方と一緒に活動した。その他、新店舗のアイデアを出し合うなど、一緒に活動を作っていく「おしえてパートナーさんの会」をオンライン開催した。「パートナーぶらす交流会」では 7 名が参加。外部講師を招き、対話型鑑賞、就労移行支援利用者の話を聴くなど、相互理解や多様性に触れながら交流する会をオンラインとカフェとの両方で同時開催。オンライン開催したとつかフューチャーセッションでは、多様性事業と連携し新たな「葉っぱ（誰かの声を可視化したカード）」を作成。でこぼこの会、ケアラズカフェえんがわ、ほっと一息金曜日、それぞれの会の参加者の声を可視化し、地域の困り事に触れる立場の方々と一緒に選定会を開催。その葉っぱを使い、遠方の参加者含む 12 名と様々な声に触れることでそれぞれが感じたこと、何ができるか考える対話の機会をもった。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ 120 名程度
- ・支出額：1,133,248 円



3. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】90名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。「子どもも高齢者も障がいのある人も、誇りと居場所と出番を感じられる地域」を目指し、商店会としてできることを模索しながら活動している。

【今年度の成果】2021年度は定例会を年10回開催し、懇親会をオンラインにて年1回開催した。会員向けの情報発信としてほのぼの便りを毎月1通作成し、定例会の議事録などの情報共有をした。ほのぼのフェスタではオンラインライブや店主の紹介映像をYouTubeで配信し、他県からの視聴含め50人が視聴。まちの商店会価値動画再生回数が935回、チャンネル登録者数132人となった。商店会川柳コンテストも同時開催し、オンラインと応募箱による応募が146歌、プレイベントとして竹灯籠を60本、会員のスタッフや子育て中のパートナーとともに作成するなど、オンラインとリアルを併用したフェスタを通じて地域の様々な方の参加があった。宅配デリバリーシステムは高齢者施設、学校に配達を2回おこない、計63食をお届けした。また、インスタ投稿を通じて、商店のまち・モノ・コトを情報発信し、今年度は68投稿、384人のフォロワー登録があった。前年度に引き続き、ウェルカムベビープロジェクトの出産祝いに商店会有志メンバーから絵本のプレゼントにエントリーがあり採用。ナッピーデー(毎月7日に赤ちゃん連れのご家族に店舗毎にサービスあり)では4店舗参加するなどまちで赤ちゃんの誕生を祝うきっかけが生まれている。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：91名
- ・支出額：1,101,569円



↑竹灯籠作り



↑ほのぼのフェスタ2021ライブ(アーカイブ配信)

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。

【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぷらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。2021 年度は、2020 年度に WAM 助成にてコンテンツの開発を実施した「3 枚の葉っぱファシリテーター養成講座」の開催に取り組んだ他、「カフェ型居場所の展開」として、他地域や他団体に向けたこまちカフェの運営についての実務講座をみてね基金の助成も活用しながら実施。また、コロナ禍において対面活動の難しさから、LINE や zoom 講座の依頼が地域ケアプラザや区民活動センター、地域の活動団体より多く寄せられた。

- ・日時：通年

- ・実績

[主催講座] およそ 60 名参加

- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～飲食編～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～手作り小物販売～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～イベントスペース貸し出し～
- ・居場所づくり学びあい講座
- ・オンラインコミュニティ学びあいぷらす
- ・居心地のよい居場所をつくろう！～こまちぷらすや他居場所の取り組みを通して～
- ・産後を社会で支える～おでかけから考える～
- ・とつかフューチャーセッション ～誰かの声から私たちの話をしよう～

[視察受け入れ] 計 5 件 延べ 22 名参加

[講師派遣/講演会等] 計 16 件 約 250 名参加

- ・神田外国語大学にて講演
- ・神奈川県多世代居住のまちづくり 担い手講座
- ・新宿区社会福祉協議会 ボランティア講座（全 2 回）
- ・フェリス学院大学にて講演
- ・コモナビート オンライン対談
- ・よこはま市民協働推進センター よこはま NPO 労務セミナー
- ・ながの NPO センター 地域循環共生圏コーディネーター講座
- ・「3 枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座
- ・北陸大学 フレキシブルシンキング in 加賀「まちの力で取り組む豊かな子育て」講演
- ・二宮町社会福祉協議会「にのにかフェ」講演
- ・こどもに関わるボランティア入門講座
- ・しょうおう志援協会わたしのまちの魅力開発塾 「わたしのやりたいからはじめるまちづくり」講演
- ・大江の郷ユニバーシティ 「社会との関係をカフェからつなぎ直す」講演 他

[講師派遣/ICT 支援] 計 12 件 延べ 127 名参加

- ・LINE 講座 9 件
- ・zoom 講座 3 件

[その他 取材対応/調査協力/アドバイザー]

- ・横浜市 横浜 FC と協力した男女共同参画の啓発動画作成
- ・横浜市子ども青少年局 横浜こども科学館指定管理者選定評価委員会委員
- ・横浜市都市整備局地域まちづくり課ヨコハマ市民まち普請事業 アドバイザー謝金 他
- ・場所：神奈川県、東京都、オンライン対応等

- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 500 名程度
- ・支出額：3,335,800 円